



開設の報告をする岡元執行役員（奥中央）

## 地元の雇用拡大に期待

企業の業務処理の受託などを行うアグレックス（本社東京）が4月25日、木造桜木の市産業支援センター内に「つがるセンター」を開設し、業務を開始しました。同社は市と県の誘致企業で、市内外から従業員10人を採用し業務をスタート。5年以内を目途に70人～80人体制を目指しています。

同日、同社執行役員の岡元俊美経営企画部長ら3人が来庁し、開設の報告をしました。福島市長は「10人でのスタートということだが、今後つがる市民の雇用増を期待しています」と話し、岡元執行役員は「寒い地域の方は辛抱強く仕事丁寧と聞いている。日本の主力センターにして、地元の雇用を増やしたい」と答えました。

## 安全・安心なまちづくりを誓う

つがる地区春の安全・安心まちづくり推進大会が4月21日、市商工会館で開催され、防犯ボランティア団体や警察官ら約70人が、安心して暮らせるまちづくりを誓いました。大会では、防犯指導隊の手嶋成信総隊長が「安全で安心して暮らせる地域社会の確立を目指し、防犯ボランティアの中核として犯罪抑止活動を推進します」と決意表明。市JUMPチームを代表して開米弾さん（木造高3年）が「自分たちの力を大いに発揮し、非行のない明るい社会づくりに貢献します」と宣言しました。

大会終了後には、パトカーを先頭に青色回転灯を装着した自主防犯パトロール隊の車両が市内を巡回し、防犯意識の向上を呼び掛けました。



巡回車両に敬礼するJUMPチーム



ゴミを拾う館岡子ども会のメンバー

## ごみのない気持ちいいまち

4月24日、館岡老人クラブ（神成英臣会長）と館岡子ども会（越後谷浩会長）のメンバーが平滝沼公園に集まり、ゴミ拾いを行いました。

同老人クラブと子ども会と一緒にゴミ拾いをするのは今年が初めて。この日は天気にも恵まれ、約50人が参加して周辺道路のゴミ拾いに精を出しました。館岡老人クラブの神成会長は「今月末にこの公園で行われる春まつりで、お客さんに気持ち良く過ごしてもらいたい」と話しました。

また、参加した野呂柚紀さん（瑞穂小3年）は「ゴミを拾ってきれいになるのは楽しい。また参加したい」と話していました。

## つがるブランドの推進に向けて

つがるブランド推進会議（福島弘芳会長）の平成28年度総会が4月28日、松の館で行われました。同会議はつがるブランドの推進を目的としており、つがるブランド認定制度など、様々な取り組みを行っています。総会では平成28年度事業計画について説明があり、新たな取り組みとして、つがるブランド認定品のインターネット販売の体制構築や、首都圏での販売ブース設置など、さらなる推進に向けて意欲的な取り組みが計画されていました。

また、出席者からは「津軽まほろば会（首都圏で暮らすつがる市出身者の会、会員約400人）の総会などでPRすれば幅が広がるのではないかなど、意見がありました。



事務局の説明を聞く会員ら

## 豊作願いみんなで田植え

木造菰槌地区の水田で5月14日、菰槌保育園（大橋登美子園長）としばた保育園（大橋金策園長）の園児や近くの小学生ら約60人が田植えを体験しました。これは、食育に取り組む同保育園が毎年行っており、さとう農園（佐藤史成社長）の水田で、地元老人クラブなどの協力を得て実施しています。よく晴れた気持ちいい空の下、子どもたちは歓声を上げながら素足で泥の中に入り、楽しそうにもち米の苗を植えていきました。

植え終わったあとは水口に集まり、お神酒や赤飯などを奉納してみんなで豊作を祈りました。奈良希叶琉（菰槌保育園）くんは「泥の感触が気持ちよかった。秋にはきなこ餅にして食べたいな」と話していました。



みんなで豊作を祈願



外崎さんの作品に見入る来場者

## 外崎裕漣水墨画展

地元感謝を込めて

下車力町の水墨画家、外崎裕司さん（雅号 裕漣）が、4月30日と5月1日、地元で初めて個展を開きました。外崎さんは平成26年日本・中国水墨画合同展での内閣総理大臣賞など、数々の賞に輝いています。この個展は、町内会の方々から絵を見たいという声があり、日頃の感謝の気持ちを込めて開催しました。

個展では県内各地から多数の来場者が訪れ、外崎さんの作品に見入っていました。外崎さんは「墨の濃淡の魅力、墨一色で出す遠近感を感じてほしい」と話しました。また「子どもたちにもっと興味を持ってほしい。学校の体育館などで、子どもから大人まで地域のみんが参加して、1つの大きな作品を描き上げてみたい」と今後の抱負を述べました。

## 塗装で社会貢献

消火栓塗装奉仕活動

5月20日、五所川原塗装工業会（稲見鉄男会長）の会員らが、奉仕活動の一環として、つがる市内の消火栓の塗装作業を行いました。この会は五所川原市、つがる市、鶴田町、鱒ヶ沢町、深浦町の塗装業者が加盟するもので、平成20年から近隣市町の消火栓を塗装するボランティア活動を行っています。この日は約20名が参加し、木造地区と柏地区に設置される約50基の消火栓を、手分けして塗装していきました。

作業を見守った市消防本部の山本警防課長は「消火栓の管理は日々行っているが、塗装までは手が回らないのが現状。きれいな消火栓を見て市民の防火意識も高まると思います」と感謝していました。



手際よく塗装していく参加者



田植え作業を見守る福島市長（左）

## 質のいい米づくりを

田植え農家を激励

稲作農家の生産意欲の高揚を図るため、福島市長や西北地域県民局、農協関係者らが5月19日、柏地区の水田を巡回して田植え農家を督励し、適切な水管理などを指導しました。

この日は柏広須の工藤康記さんと金澤昭雄さんの水田を訪問。工藤さんから「今年は苗もよく育ち、作業は順調」との報告があり、福島市長は「品質のいい米が収穫できるよう期待します」と激励していました。

金澤さんからは「幸い、4月17日～18日の暴風被害はなかった」との報告を受けた福島市長は「被害がなかったのは何より。体調管理や作業中のけがに気を付けて頑張ってください」と話していました。